成城大学

境新一ゼミナール　　清水チーム

「世田谷区内の連携強化による価値創造と魅力発信

人材育成機関「世田谷創造学校」」

参加メンバー（敬称略）	
チームリーダー：清水　　巧（3 年）	
鷲見　将太（3 年）	堀越　大翔（3 年）
齋藤　尚暉（3 年）	西坂　圭祐（3 年）
木村　祐紀（3 年）	新島　崇弘（3 年）
西牟田祐希（3 年）	吉廣　　琢（3 年）
山村　鉄兵（3 年）	中山　綺乃（3 年）
大塚　仁美（3 年）	山本里瞳美（3 年）
樋口有里紗（3 年）	熊田　奈月（3 年）
畠山すみれ（3 年）	宮城あずさ（3 年）
指導教員：境　　新一（経済学部経営学科　教授）	

世田谷区内の連携強化による価値創造と魅力発信
人材育成機関「世田谷創造学校」事業提案書 要旨

平成 26 年 10 月 17 日（金） 成城大学経済学部経営学科 境 新一 ゼミナール

テーマ選定

今回、事業計画案を提案する上で、
① 大学地域と行政の連携促進に関する提案
② 区内外に向けて世田谷の魅力を発信すること(city sales)で、地域活性化を図る提案
③ 世田谷区の産業振興に関する提案
以上の 3 つの中から中心テーマを選択し、それに基づいた事業計画案を作成するという規定があった。
私たちの事業計画案では、上記全て、特に①と②の要素を含んでいるが、今回は②を中心テーマとして提案する。

図表 世田谷創造学校のフレームワーク

提案背景

世田谷区には、23 区内では 2 番目の広大な耕地面積、さらには 15 校もの大学が区内に点在することなど、活用できる地域特性が多く存在する。このような地域特性を、日頃の研究で得た知見を用いて、世田谷区のさらなる発展に結び付けることは十分可能であると考え、今回の事業計画案を作成した。
私たちは、地域振興において①人材の育成、②産学公連携による事業創造、以上の要素が不可欠と考える。

事業提案

今回私たちが提案した「世田谷区創造学校」は、地域振興に貢献できる人材を育成し、世田谷区を学びの場として価値創造することを目的としている。具体的には、地域振興に貢献できるプロデューサーを理論と実践の両面を兼ね備えた学習プログラムによって育成し、**世田谷区に学びの場としてブランディングし、価値創造をする**ものである。

世田谷創造学校では内容別に学習コースを設置する。① 6 次産業×都市農業プロデューサー育成コース ② 商店街プロデューサー育成コース
③ 文化・芸術プロデューサー育成コースの 3 つを予定している。なお、各学習コースはアンケート調査を実施し選定したものである。

予想効果

当事業計画案により、以下の効果が期待できる。
①能力の持った人材の育成・輩出し、その修了後の選択として世田谷区内での活躍の場を用意することにより、産業・地域振興が期待できる。
②学びの地域としての世田谷区の面を強化し、輩出した能力の高い人材が魅力発信の役割も兼ね、世田谷区の価値を認識させ、産業・地域振興が期待できる。

世田谷区内の連携強化による価値創造と魅力発信
人材育成機関「世田谷創造学校」事業提案書

平成 26 年 10 月 17 日（金）
成城大学経済学部経営学科
境 新一 ゼミナール

目　　次

第 1 章 はじめに

第 2 章 ゼミナールの取り組みおよびアンケート調査の分析
2-1. 世田谷区の特徴
2-2. 大学生による地域活性化活動の紹介～せたがやまちなか研究会～
2-3. アンケート調査と分析

第 3 章 世田谷創造学校の事業計画書
3-1. 理念
3-2. 会社概要
3-3. 学習コース概要
3-4. 講師の選定・講義時間帯および修了要項
3-5. 期待される効果

第 4 章 各学習コースについて
4-1. ６次産業×都市農業プロデューサー育成コース
4-2. 商店街プロデューサー育成コース
4-3. 文化・芸術プロデューサー育成コース

第 5 章 経営戦略および資金計画
5-1. 経営戦略
5-2. 資金計画

第 6 章 総括
6-1. 展望と課題
6-2. おわりに

参考文献

第１章 はじめに

私たち成城大学経済学部境ゼミナール３年は、世田谷区にある成城キャンパスに通い始めて２年と半年が経過した。中では、成城中学校に入学してから大学に至るまで一貫して進学している者もおり、時の経過とともに世田谷区が自分たちにとって、非常に馴染みのあり愛着のある地域となっている。さらに、私たちが所属している境ゼミナールでは、成城をはじめとした世田谷区内の商店街の調査、世田谷区内の５大学が共同開催している「せたがやまちなか研究会」などを行っている。そうした課外研究を通して、私たちの世田谷区への想いは日毎に堅強なものとなっている。加えて、日々の研究成果を用いて、さらにこの街を良くしたい、他の地域の人々が今以上に憧れる地域にしたい、という思いも湧出して止まない。

現在、世田谷区には、都内では２番目の広大な土地、さらには15校もの大学が区内に点在することなど、活用できる地域特性が多く存在する。このような地域特性を、日頃の研究で得た知見を用いて、世田谷区のさらなる発展に結び付けることは十分可能であると考え、今回の事業計画案を作成した。

世田谷区のさらなる地域振興を考える上で、下の図表 1-1 のような**行政、教育機関、民間企業が三位一体となって、協力関係を築いて事業創造をすることが不可欠**と考える。今回私たちが、提案する人材育成事業では、以上のような協力関係の下、世田谷区のさらなる価値創造を目的としている。

具体的には、地域振興に貢献できるプロデューサーを理論と実践の両面を兼ね備えた学習プログラムによって育成し、輩出した人材の地域貢献、さらには**世田谷区を学びの場としてブランディングし、価値創造をする**ものである。

今回、事業案を提案する上で

① 大学地域と行政の連携促進に関する提案
② 区内外に向けて世田谷の魅力を発信すること(city sales)で、地域活性化を図る提案
③ 世田谷区の産業振興に関する提案

以上の３つの中から中心テーマを選択し、それに基づいた事業計画案を作成するという規定があった。私たちの事業計画案では、上記全て、特に①と②の要素を含んでいるが、今回は②を中心テーマとして提案する。

図表 1-1　世田谷区内での事業創造図

第２章 ゼミナールの取り組みおよびアンケート調査の分析

2-1　世田谷区の特徴

世田谷区は、東京都の中でも有数の地域である。人口総数は 86.7 万人（23 区中１位）、面積は 58.08 ㎢(同２位)、世帯数は 45.1 万世帯(同１位)となっている。これに伴い、世田谷区には多くの研究・教育機関（大学）と商店街が存在し、大学、地元企業と行政との間に産・学・公の地域連携が模索されてきた。とりわけ、成城の場合、成城学園が 1925（大正 15）年に新宿区から移転したことに伴い、成城商店街も 1929（昭和４）年から発展してきた歴史をもつ。

また、今日では多くの国際協力・多文化共生のプロジェクト等も行われており外国人居住者数の増加や広大な農地面積（経営耕地面積 12,583a、練馬区に次いで都内第２位）を活かした都市農業等の魅力と高い可能性があるといえる。

図表 2-1　東京都の人口・面積・人口密度および世帯数

（単位　世帯数＝世帯　人口，人口密度＝人　面積＝k ㎡）　平成 26 年１月１日　現在

地域	人口総数	人口		面積	人口密度	世帯数			
		日本人総数	外国人総数		(1k㎡あたり)	総世帯数	日本人のみの世帯数	外国人のみの世帯数	複数国籍世帯数
総数	13,202,041	12,807,631	394,410	2,188.67	6,032	6,699,669	6,409,857	207,239	82,573
23区部	9,016,342	8,685,756	330,586	622.99	14,473	4,763,324	4,521,391	177,673	64,260
千代田区	54,160	51,703	2,457	11.64	4,653	30,429	28,542	1,543	344
中央区	132,610	127,694	4,916	10.18	13,027	76,455	72,653	2,867	935
港区	235,337	217,233	18,104	20.34	11,570	134,387	121,684	9,835	2,868
新宿区	324,082	289,961	34,121	18.23	17,777	201,060	174,198	23,501	3,361
文京区	204,258	197,171	7,087	11.31	18,060	111,046	105,452	4,457	1,137
台東区	187,792	174,990	12,802	10.08	18,630	107,941	98,543	7,519	1,879
墨田区	254,627	245,318	9,309	13.75	18,518	136,065	129,197	4,428	2,440
江東区	487,142	465,908	21,234	39.99	12,182	244,836	231,181	9,466	4,189
品川区	368,761	358,315	10,446	22.72	16,231	202,694	195,107	5,210	2,377
目黒区	267,379	260,397	6,982	14.70	18,189	148,794	143,390	3,864	1,540
大田区	701,416	682,871	18,545	60.42	11,609	364,423	351,085	8,890	4,448
世田谷区	867,552	852,707	14,845	58.08	14,937	451,965	440,266	7,745	3,954
渋谷区	214,665	205,785	8,880	15.11	14,207	129,406	122,631	5,047	1,728
中野区	313,665	302,716	10,949	15.59	20,120	187,895	178,897	7,144	1,854
杉並区	542,956	532,247	10,709	34.02	15,960	301,516	292,789	6,451	2,276
豊島区	271,643	252,110	19,533	13.01	20,880	163,481	147,980	13,302	2,199
北区	334,723	320,165	14,558	20.59	16,257	180,230	169,980	7,784	2,466
荒川区	207,635	192,076	15,559	10.20	20,356	107,063	96,463	8,325	2,275
板橋区	540,040	523,326	16,714	32.17	16,787	282,640	270,311	8,624	3,705
練馬区	711,212	698,354	12,858	48.16	14,768	347,096	337,454	6,173	3,469
足立区	670,385	647,869	22,516	53.20	12,601	319,486	304,913	8,391	6,182
葛飾区	448,186	434,220	13,966	34.84	12,864	215,472	205,969	6,144	3,359
江戸川区	676,116	652,620	23,496	49.86	13,560	318,944	302,706	10,963	5,275
市部	4,099,405	4,036,448	62,957	783.94	5,229	1,895,805	1,848,615	29,271	17,919
郡部	58,956	58,316	640	375.96	157	25,347	24,871	214	262
島部	27,338	27,111	227	405.78	67	15,193	14,980	81	132

資料：東京都総務局統計部「住民基本台帳による世帯と人口」　世田谷区役所ウェブサイト掲載データより作成
（注）面積は平成 25 年 10 月１日現在の国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」による

図表 2-2　東京都地域別農家数・農家の世帯員数および経営耕地面積

（単位　農家数＝経営体　世帯員数＝人　経営耕地面積＝ａ）　平成 22 年 2 月 1 日　現在

地域	農家数 総数	農家の世帯員数 総数	経営耕地面積
総数	13,099	27,224	582,550
区部	1,767	4,690	69,753
千代田	—	—	—
中央	2	—	38
港	1	χ	χ
新宿	1	—	11
文京	1	χ	χ
台東	1	—	13
墨田	—	—	—
江東	1	—	10
品川	1	—	—
目黒	13	29	292
大田	11	30	740
世田谷	418	952	12,583
渋谷	—	—	—
中野	16	10	492
杉並	119	282	4,293
豊島	—	—	—
北	—	—	—
荒川	—	—	—
板橋	82	162	2,212
練馬	516	1,557	23,510
足立	224	562	7,588
葛飾	140	454	9,104
江戸川	220	648	8,509
市部	9,208	19,841	414,172
郡部	988	1,125	31,787
島部	1,136	1,568	66,838

資料　「2010 年農林業センサス東京都調査結果報告（農林業経営体調査）」
世田谷区役所ウェブサイト掲載データより作成

図表 2-3　世田谷区の特徴

世田谷区の地域特徴	商業面から見る特徴
1.人口は約86.7万人で23区内随一である	→消費者が多い
2.都内随一の富裕エリアである	
3.都心への通勤者の住宅地で構成されるベッドタウンである	→都心からの交通の便が良い
4.15校もの大学が点在している	→講師となりうる人材・知の集積地である
5.世代を問わず、盛んに学習機会が設けられている	
6.耕地面積が12.583(a)であり、23区内第2位	→都内においても農業活動を行う余地がある

2-2 大学生による地域活性化活動の紹介～せたがやまちなか研究会～

ここでは、世田谷区が主導する世田谷まちなか観光研究会および 5 大学の学生・教員で構成される、せたがやまちなか研究会の概要を述べる。

上記研究会は 2013（平成 25）年 7 月に協議会に再編され、世田谷まちなか観光協議会の第 1 回（総会）が 2013（平成 25）年 7 月 31 日（産業プラザ）に開催された。世田谷まちなか観光協議会事務局は公益財団法人・世田谷区産業振興公社商業・観光・ものづくり支援係にある。

これと並行して、世田谷まちなか研究会が開催された。これは大学、地元企業と行政との間に産・学・公の地域連携の可能性を模索しつつ、地域活性化に貢献する試みを提案し、実践しているものである。

研究会は、国士舘大学・田中史人，駒澤大学・松本典子，昭和女子大学・鶴田佳子，成城大学・境 新一，日本大学・後藤範章の 5 大学ゼミナールの教員および学生で構成され、当該 5 大学内の持ち回りで開催されている。第 1 回が 2012（平成 24）年 6 月に開催されて以来、2014 年 8 月末現在で 5 回開催されており、各大学との情報交流を通じて世田谷区を再認識する機会となった。

図表 2-4　せたがやまちなか研究会の内容

第3回	2013 7.13	成城大学	「大学と商店街　－地域連携の可能性を探る－」
	国士舘		商業振興，農業振興における近隣商店街との産官学連携の在り方について
	駒澤		せたがや観光～学生，体験したってよ～
	昭和		1）三宿四二〇商店街との連携　2）世田谷パン祭り
	成城		1）「S1 リーグ：そうだ商店街にも行こう！」
			2）成城学園前駅北口から成城大学までの広い一帯を舞台にした□映画祭の企画□
	日本		下高井戸商店街のプロモーションビデオ
第4回	2013 11.16	国士舘大学	「世田谷駅前商店街活性化プランコンテスト」
	国士舘		1）参勤交代パレード　2）やすらかカフェ　3）まちなか研究
	駒澤		ないならば　作ってしまおう　世田谷城
	昭和		三軒茶屋の商店街活性化の取り組み～したのやえんにちと三茶まち道楽～□
	成城		世田谷駅前商店街活性化案　～御代官様は外国人？
	日本		下高井戸商店街プロモーションビデオ
第5回	2014 8.2	昭和女子大学	「せたがや学生プレゼン大会の中間報告」
	国士舘		1）都会に泊まろう　2）高齢者が働ける食堂　3）K.B.S
	駒澤		動画で発見！魅力ある世田谷　住む人・来る人・知る人へ□
	昭和		三茶・三宿における「まちの輪」を生み出す情報発信
	成城		地域活性化”ビジネスプラン－学びの地域としての世田谷区ブランドの構築－
	日本		世田谷の市民住民団体　－ビジュアリゼーションによる公共財化－□

2-3 アンケート調査と分析

（1）調査目的

世田谷区内外問わず、住民が世田谷区に対して抱いている印象について、世田谷区内の教育施設への需要の有無について調査すべくアンケート調査を行った。

（2）調査内容および方法等

2014 年 7 月に、成城大学生、日本大学生、他一般の方々の計 319 名を対象に、主に教育機関に対して、世田谷区に対しての 2 点に関する質問を問 1～9（問 1～4 は調査対象者の属性についての設問である）に分けて調査した。

（3）設問内容

今回のアンケート調査を行うにあたり、以下の設問で行った。

問 1　年齢　問 2　性別　問 3　居住地　問 4　職業

問 5 今までに、大学や専門学校に所属しながら、他の専修学校の講義を受けることに興味・関心はありますか。また興味・関心がないと回答した方は、必要性が生じた場合には、講座について関心を持ちますか。

問 6 あなたが世田谷区の特徴を一言で説明するとすれば、何ですか。

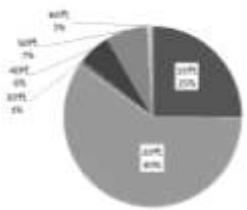
問 7 あなたが世田谷のブランドイメージ（将来を含め）を創るとすれば、何を考えますか。

問 8 あなたが将来のご自身に投資をするとすれば、何でしょうか。

問 9 行政と連携しながら民間主導で行う人材育成サービス、または、人材育成塾を世田谷区に開設すると仮定します。あなたが利用するか否かを決める際、どの条件を重視しますか。

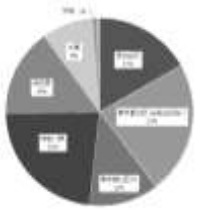
（4）問 1～4 の回答結果と考察

図表 2-5 年齢

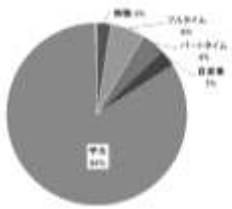


図表 2-6 性別

図表 2-7 居住地



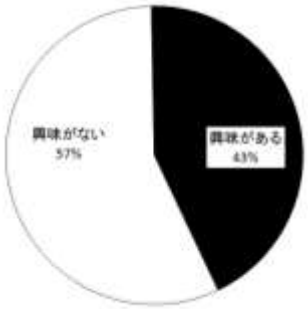
図表 2-8 職業



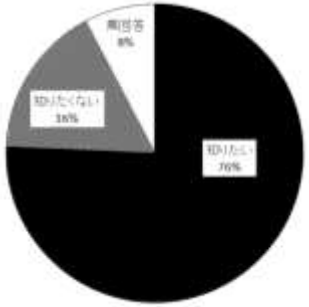
問 1～4 は調査対象者の属性についての設問である。10～20 代、学生の対象が多い結果となっているので、今後のさらなる調査ではより平均的に対象を選定したい。しかし、集中してはいるが対象は様々であり、**多くの意見を調査することに成功した**と考える。

（5）問 5 の回答結果に関しての考察

図表 2-9　専修学校の講義への関心



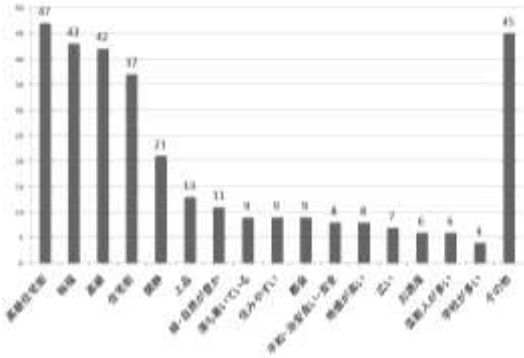
図表 2-10 必要が生じた場合に情報が知りたい（前問にて「興味がない」と回答した者のうち）



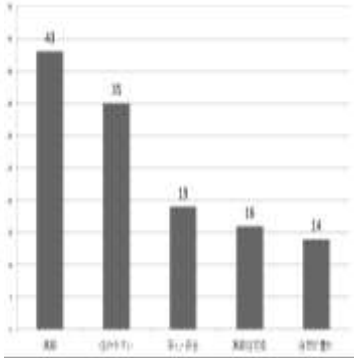
問 5 の専修学校の講義への関心に対する質問では、教育機関に対しての需要を調査した。本質問の回答によると、日常生活においても教育機関の講義を受けることに関心を持つ割合は 2～3 人に 1 人ということになる。しかし、続く「必要が生じた場合に関心を持つかどうか」という質問には興味を持つといった回答が多く見受けられる。つまり、講義内容、さらに**講義修了後に得られるものへの需要次第では、多くの人が講義内容に関心を向けると分析でき、当事業において、受講生となりうる人材は多い**と考える。

（6）問 6～7 の回答結果に関しての考察

図表 2-11 世田谷区のイメージ（複数回答）



図表 2-12　世田谷区が創造すべきブランドイメージ（上位 5 項目）



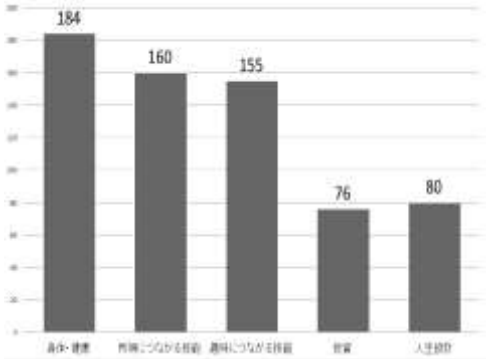
問 6～7 では、現状の世田谷区に対しての印象について調査した。問 6 の「現在の世田谷区のイメージに関する質問」において回答数が 30 を超えるものに注目すると、裕福(富裕層が多い)・高級住宅街・住宅街・高級など同様のイメージであることが分かる。

次に、問 7 の「世田谷区が持つべきブランドイメージ」の回答数上位 3 項目は高級・暮らしやすい・自然が豊かである。また、生活環境に関しての記述が多いことが分かる。

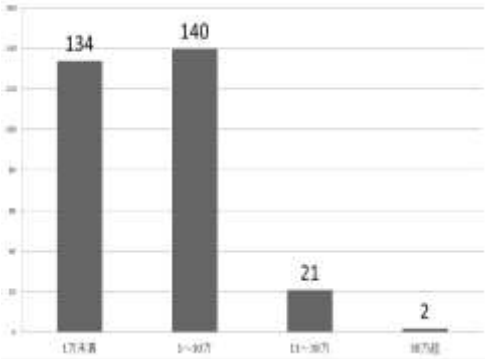
以上結果より**商業面から後押しする人材を育成・輩出する当事業は有効である**と考える。

（7）問 8～9 の回答結果に関しての考察

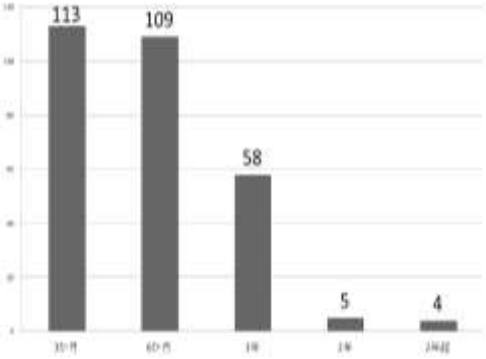
図表 2-13 自己開発（複数回答）



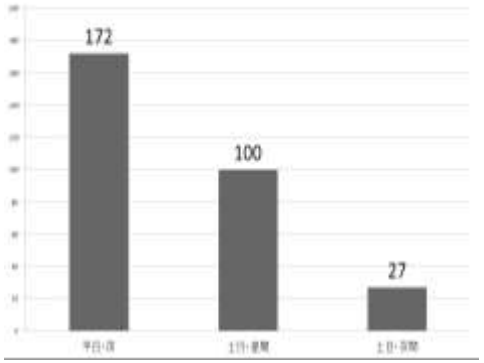
図表 2-14 受講料（複数回答）



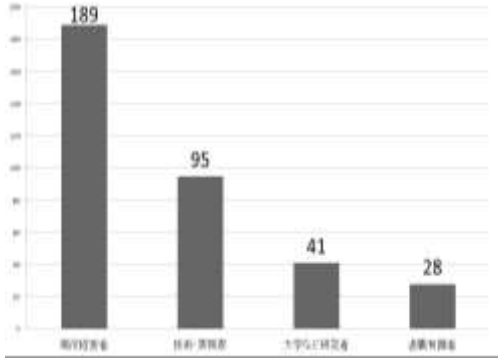
図表 2-15 受講期間（複数回答）



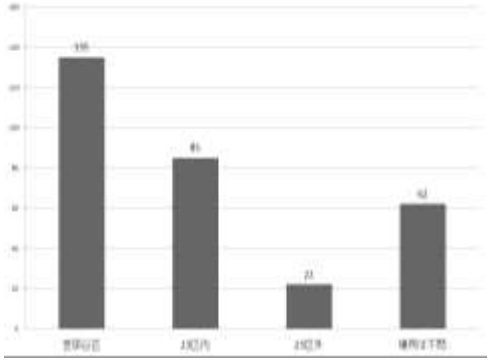
図表 2-16 講義時間帯（複数回答）



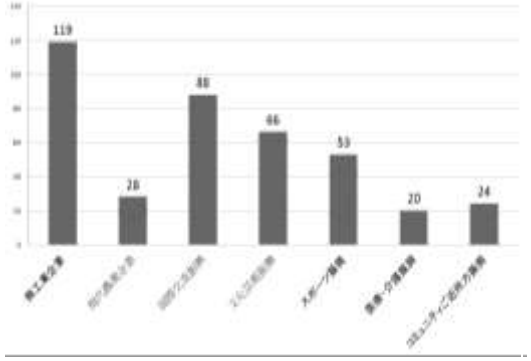
図表 2-17 希望講師（複数回答）



図表 2-18 希望受講地（複数回答）



図表 2-19 講義内容（複数回答）



問 9-7 の「その他の要望」に関する自由記述欄では、専門知識に特化した内容を希望する、アクセスの利便性、講義に少人数制を求めていることなどの意見が得られた。

問 8～9 においては、人材育成サービスに対しての意識調査を行った。現状、当事業との差異がある部分はあるが、参考にして反映できる部分は、柔軟に対応して、講義を計画する。しかし、その他の部分にも記述があった、会場までの交通の便や専門性に特化した講義内容は、網羅できており、実際に実行に移す段階には、**非常に消費者ニーズとマッチした講義**になることが予測される。

第 3 章 世田谷創造学校の事業計画書

3-1. 目的

今回の事業計画案の核となる世田谷創造学校とは、**地域振興に欠かせない第一のステップである人材の育成を行う各種学校**である。これにより、輩出した人材が地域貢献し、さらに世田谷区を、**学習機会が多く人材育成が盛んな地域、そして能力の高い人材を多く輩出する地域として価値創造し、それを他の地域に発信することで、世田谷区の魅力の発信と地域活性化を狙う。**

3-2. 会社概要

世田谷創造学校の会社概要および規模は以下のように構想している。

図表 3-1　会社概要

企業名	株式会社 世田谷創造学校				
企業理念	質の高い学習サービスを提供し、人材育成を通して、社会貢献を追究し続ける				
事業目的	各産業の担うことのできるプロデューサーの育成と人材育成を通した地域振興				
事業内容	理論および実践的な学習サービスの提供。各産業を担うプロデューサーの育成				
設立	平成 29 年 4 月 1 日	従業員数	10 名	資本金	900 万円

3-3. 学習コース概要

世田谷創造学校では、内容別に３つの学習コースを設置する。

（各コース詳細は第 4 章参照）

① ６次産業×都市農業プロデューサー育成コース
② 商店街プロデューサー育成コース
③ 文化・芸術プロデューサー育成コース

図表 3-2　各コースのイメージ

3-4. 講師の選定・講義時間帯および修了要項

講師は経営者および各実務経験者より当社独自に選定する。開講時間は平日夜間と土日昼夜に行う。履修モデルに関しては別途作成予定である。また、修了要項は全講座ともに２／３以上の出席かつ事業計画書の審査に合格すること。

3-5. 期待される効果

①能力の持った人材の育成・輩出し、その修了後の選択として世田谷区内での活躍の場を用意することで、産業・地域振興につながる。
②学びの地域としての世田谷区の面を強化し、その輩出した能力の高い人材が魅力発信の役割も兼ね、世田谷区の価値を認識させ、産業・地域振興につながる。

第 4 章 各学習コースについて

4-1. ６次産業×都市農業プロデューサー育成コース

（1）コース設立理由

アンケートの集計結果では、世田谷区の印象として、高級・閑静・上品といったものが多く挙げられた。しかし、日本では農業就業人口が減少しており、都市化が進行している。その現状を踏まえ、近年注目されている６次産業を、都内でも広大な土地を持つ世田谷区で行うことが出来れば、**有数な都市農業教育の先駆地として世田谷区は脚光を浴びる**と考えたため、当コースの設立を計画する。

（2）６次産業×都市農業プロデューサーとは

農業従事者などが、生産、加工、流通・販売を全て行う６次産業と、都市およびその近郊で農業を行う都市農業をどちらも両立して行うことのできる人材のことを指す。６次産業の有名な例としては、一時期生キャラメルによってブームにもなった北海道の花畑牧場が挙げられる。都市農業としては、農業の生産機能として以外にも、都市環境保全や防災機能などの利点が考えられる。

６次産業を担う人材の認定、育成を目的として「食 Pro.」という国家認定制度が存在している。この国家認定制度は、食の６次産業の現場で活躍している人、これから取り組みたい人であれば、サポートする人も、ビジネスに取り組む人も誰でも対象となる制度である。エントリーレベルと呼ばれているレベル 1 から、トッププロレベルと呼ばれているレベル 7 まで段位分けがされており、現在はレベル 1 からレベル 4 までの認定のみ行われている。

レベル 1 はエントリーレベル。レベル 2 は一定の指示のもとに、ある程度仕事ができる段階。レベル 3 は指示等がなくても、一人前の仕事ができる段階となっている。この制度の認定を受けることによって、消費者や他の事業者から信頼を受け、ビジネスパートナーを見つけやすくなるなどの利点が考えられる。

図表 4-1.　６次産業のイメージ図

(3) シラバス

コース名	所要期間
６次産業×都市農業プロデューサー育成コース	６か月間

コースの目的

農業の知識を初歩的なことから、総合的に学ぶところからスタートし、６次産業や都市農業を自ら経営できる人材を育成する。

講義内容

＜レベル１＞
６次産業化論
経営および経営分析の基礎
経営および経営分析の基礎（事例）
食品衛生管理（基礎）
農産物と水産物
食品加工（基礎）
食品流通
食品流通視察
総括

＜レベル３＞
経営戦略
経営戦略（事例）
経営管理
商品開発
マーケティング（応用）
６次産業化関連制度
事業計画　（診断）
コーディネート手法（応用）
総括

＜レベル２＞
６次産業化関連法
６次産業化事例分析
事業計画（基礎）
農業・水産業および食品加工・流通関連法
食品衛生管理（応用）
農業技術と水産技術 食品加工（応用）
マーケティング（基礎）
経営分析の応用
財務の基礎
財務会計
金融制度
事業計画（応用）
コーディネート手法（基礎）
総括

＜都市農業＞
都市農業とは
都市農業の課題
都市農業の機能
都市農業の具体的事例
都市農業事業計画書の作成

講義の進め方

１講義２時間、座学と実習を合わせ、計 80 時間の講義予定。

修了要項

・レベル 1～3 までの全カリュキュラムの受講。（任意で食 Pro.の段位認定取得）
・一定基準以上の事業計画書の作成。実務家、専門家が内容を審査し、合否を判定する。
以上の二点の要件を満たすこと。

修了後の展望

就労としては、当学校の講師としての採用（雇用）が考えられる。
予想所得としては、現段階の講師の所得である年間 320 万円と想定する。
他の選択としては独立も考えられる。この場合の所得は、６次産業を成功した場合の売上高の例として、株式会社スカイファームは資本金 1000 万円で、売上 5600 万円、有限会社三和農産は資本金 500 万円で売上 7500 万円を達成している。この場合、可処分所得は 500 万円前後が見込まれる。当コースの独立する修了生も同額の可処分所得を目指す。

4-2. 商店街プロデューサー育成コース

（1）コース設立理由

現在、世田谷の商店街は現在さまざまな問題点を抱えている。例として、駅周辺での大手チェーン店の増加に伴い、商店街の店舗の衰退や移り変わりが激しくなっていることや、後継者不足、商店街に会員が集まらないことによる資金不足、商店街を活性化させたいがアプローチの仕方が分からない、活性化のための仕組み作りが弱い、などが考えられる。そこで、上記の問題を解決し、商店街を活性化させるため、商店街をプロデュースできる人材を育成するコースを設立する。

（2）商店街プロデューサーとは

現状分析、イベントの運営、宣伝、サイトの管理などを含めた商店街の活性化についての基礎知識を備え、さらに法学や地域政策など多角的な視野をもったプロデューサーである。さらには、来る 2020 年に開催される東京オリンピックなどの、国際交流を通じて地域活性化を促す能力をもった人材を育成する。

以下は商店街プロデューサーが行った国際交流による地域活性化事例である。

・石川の元気印商店街　柿木畠振興会

全世帯が参加できるコミュニティづくりを目標としたまちづくり協定の取り組みの一環として 1993（平成 5）年から行われている柿まつり。柿木畠にホームステイにきた外国人留学生に柿木畠の伝統芸能である柿木太鼓を実際に体験した。後日、留学生がその体験談をネットで発信した。

図表 4-2 イベントイメージ写真①

図表 4-3 イベントイメージ写真②

・根岸橋商店街で恒例の「もちつき大会＆地域交流イベント」
　プロバスケットボールチーム“横浜ビー・コルセアーズ”から外国人選手４名が参加し、地域振興に貢献した。

図表 4-4 イベントイメージ写真③

(3) シラバス

コース名	所要期間
商店街プロデューサー育成コース	6 か月間

コースの目的

　現在の商店街の問題点を改善し、より良い商店街のさらなる発展に貢献できるようなプロデューサーを育成する。そのような人材輩出を通して、地域活性化を促進する。

講義内容

＜座学＞

商店街の基本構造	地域コミュニティ
商店街の機能と役割	財務管理
商店街の歴史	統計データの活用と効果的な分析手法
日本の関連する法令規制	ブランディング
マーケティング手法	商店街のリスクマネジメント(基礎)
プロモーション手法	商店街関係者による講話
商店街の空き店舗対策	
買い物弱者救済	＜実習＞
インターネットの活用	商店街観光ツアー
WEB サイトの管理・運営方法	国際交流パーティー
WEB サイトの実践	商店街料理教室
イベントの計画および実施	
イベントの評価および振り返り	

講義の進め方

　1 講義 2 時間、座学と実習を合わせ、計 80 時間講義予定

修了要項

　全講義を受講後、商店街活性化のための事業計画案を作成する。審査は実務家、専門家を含む講師が行う。

修了後の展望

　商店街プロデュースコースを修了した受講生は、修了後各商店街に出向いて商店街活性化に向けた複数の事業からなる計画書の作成を支援するためのアドバイザー派遣や、商店街活性化に資するセミナー等の企画・立案支援を行うことが考えられる。アドバイザー派遣は、1 回 2 万円程度で行い、1 か月 10 日間実働し、年間 240 万円ほどの可処分所得を目安とする。その他、商店街での各イベントの立案、実行により 160 万円の可処分所得を目安とし、年間 400 万円程度の可処分所得を得ることができると予想する。
　さらには、行政と連携している企業などへの選択も例としてあげられる。その一部としては、一般財団法人 地域活性化センターや株式会社 商店街支援センターといった企業が考えられる。

4-3. 文化・芸術プロデューサー育成コース

(1) コース設立理由

　世田谷区の取組みとして、下北沢駅の再開発構想において、「街の個性や雰囲気を踏まえつつ、にぎわいや回遊性、子育て世代が住める街、文化をキーワードに街に新たな魅力を創出すること」を目指す、という記事を平成 25 年 11 月 21 日に小田急電鉄が発表した。文化・芸術に関わる現状と課題を考えている点から芸術や文化に対する世田谷区の地域の関心が現在高まっていることが分かる。
　そこで、アート・プロデューサーという感動や価値創造の担い手であるプロデューサーの育成を通じて世田谷区の地域振興を目的とする。

(2) アート・プロデューサーとは

　アーティストと共に、コンテンツの感動価値の具現化を図り、発信する環境を整えることで、社会にアートを循環させることを促進させる人材である。
　2012 年に行われた横浜市庁舎を利用し、歴史的建造物を活用した文化芸術創造の実験型プログラムの「BankART 1929」という展覧会がある。この展覧会は芸術文化の育つ場にするとともに、食に代表される生活文化や、情報や都市、祭り、市場などのジャンルと地域市民や専門家、海外の方々などが交わることで、普段はアートやクリエイティブの拠点に足を運ばない人にもその存在を知ってもらうきっかけづくりを目的として行われた。このイベントでは、WEB やフリーペーパーの制作に貢献し、制作会社や市庁舎側の担当者と話し合い、編集方針の提案などによりプロデュースを行った。

（3）シラバス

コース名	所要期間
文化・芸術プロデューサー育成コース	6 か月間

コースの目的

当コースでは、1 年という短い講義期間の中で学習するにあたって、美術（造形）、音楽（音響）、映画・演劇（映像）の分野に焦点をあて、アート・プロデューサーの育成を行っていく。その育成した人材を通して、芸術・文化が根付いている地として世田谷区を価値創造し、地域振興に貢献する。

講義内容

＜講義＞
ｱｰﾄ･ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄの背景と需要
ｱｰﾄ･ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ概論Ⅰ（音楽史）
ｱｰﾄ･ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ概論Ⅱ（美術史）
ｱｰﾄ･ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ概論Ⅲ（映画史）
ｱｰﾄ･ﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ概論Ⅳ（日本の伝統芸能）
アートの市場分析
アートとビジネスの関連性
アートと法律（著作権の管理）
プロデューサーの役割
プロモーション手法
イベントの計画
イベントの実施
イベントの評価および振り返りおよび継続
文化施設の運営
指定管理者の業務
外国人とのコミュニケーション方法
外国人とのコミュニケーションの実践
リスクマネジメント（基礎）
有効活用できる政策の利用方法
事業計画書の作成方法
事業計画書の作成
接遇マナー
ｸﾗｳﾄﾞﾌｧﾝﾃﾞｨﾝｸﾞによる資金調達

＜実習＞
ﾊﾞｯｸｽﾃｰｼﾞﾂｱｰ１（コンサートホール）
ﾊﾞｯｸｽﾃｰｼﾞﾂｱｰⅡ（世田谷美術館）
ﾊﾞｯｸｽﾃｰｼﾞﾂｱｰⅢ（世田谷ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸｼｱﾀｰ）
ﾊﾞｯｸｽﾃｰｼﾞﾂｱｰⅣ（東宝スタジオ見学）

講義の進め方

講義の終盤は、実際に世田谷区の施設を訪問しワークショップを行う。

修了要項

半年間講義を受講する。更に、受講者が制作した企画書を基に、プレゼンテーションを行い、入賞者は実際にイベントのプロデュースを行う。

修了後の展望

イベントのアドバイザーや演出家等から活動を行ってき、将来的には世田谷区の美術館や文学館などの施設で自ら企画制作と運営管理を兼務する。修了者の年間所得が約 300 万～400 万円以上になるように、卒業後の一定期間はイベントプロデュースの可能な拠点の紹介を行うことで対策を取っていく。

第 5 章 経営戦略および資金計画

5-1. 経営戦略

当事業における経営戦略を以下のように構想する。

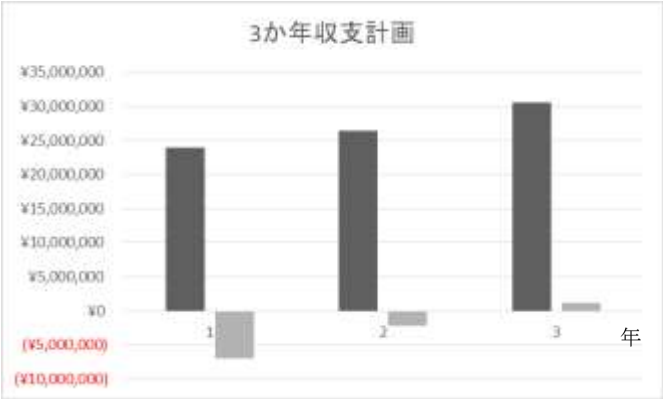
図表 5-1　市場環境と競争優位性

競合他社	会社経営者の開発を行う組織 例)専門学校 東京スクール･オブ･ビジネス
競合優位性	より高い専門性をもった学習内容の提供により、専門分野においてより優秀な人材を開発する点
	加えて、特定地域に特化した事業の用意することにより、その地域の地域活性化を促進する点
市場規模	教育業界の昨年時点での業界規模は約 8000 億円であり、平成 21 年以降は成長が続いている。
リスクと解決策	講師陣の選定･招聘方法･修了後の支援方法を産学公間の協力体制により、解決する。

5-2. 資金計画

私たちは、当事業における収支計画を試算した。下記の図表 5-2 は、予定しているスケジュールにて当事業を行った場合の売上･営業利益の推移を表している。3 年目（5,6 期）より黒字化を予定している。

図表 5-2　売上・営業利益の推移グラフ



（左は売上高、右は営業利益を表す）

図表 5-3 収支計画項目詳細

項目	1年目(1.2期目)	
①売上高	¥24,000,000	①受講生 受講生(60名)×(入会金5万円+受講料15万円)×2期
②売上原価	¥19,200,000	②人件費 (講師月3名+従業員5名)×月20万円×12か月
③売上総利益	¥4,800,000	③=①-②
④初期費用	¥3,212,648	④敷金・改装費 2,350,000 備品費 862,648
⑤テナント料	¥2,400,000	⑤世田谷区(60㎡程度)平均テナント料から算出 月20万円×12か月
⑥水道光熱費	¥720,000	⑥学習教室の平均的な光熱費を参照 月6万円×12か月
⑦販売促進費	¥4,800,000	⑦売上高(①)×20%
⑧その他経費	¥600,000	⑧コピー機リース費など 月5万円×12か月
⑨販売管理費合計	¥11,732,648	
⑩営業利益	(¥6,932,648)	
項目	2年目(3.4期目)	
①売上高	¥26,400,000	①受講生は年15%増、69名 他科目受講会員前年20% 12名
②売上原価	¥19,200,000	②人件費
③売上総利益	¥7,200,000	③=①-②
④支払利息	¥400,000	④支払利息1000万円借り入れ 年利4%
⑤テナント料	¥2,400,000	⑤世田谷区(60㎡程度)平均テナント料から算出 月20万円×12か月
⑥水道光熱費	¥720,000	⑥学習教室の平均的な光熱費を参照 月6万円×12か月
⑦販売促進費	¥5,280,000	⑦売上高(①)×20%
⑧その他経費	¥600,000	⑧コピー機リース費など 月5万円×12か月
⑨販売管理費合計	¥9,400,000	
⑩営業利益	(¥2,200,000)	
項目	3年目(5.6期目)	
①売上高	¥30,600,000	①受講生は年15%増、80名 他科目受講会員前年20% 14名
②売上原価	¥19,200,000	②人件費
③売上総利益	¥11,400,000	③=①-②
④支払利息	¥400,000	④支払利息1000万円借り入れ 年利4%
⑤テナント料	¥2,400,000	⑤世田谷区(60㎡程度)平均テナント料から算出 月20万円×12か月
⑥水道光熱費	¥720,000	⑥学習教室の平均的な光熱費を参照 月6万円×12か月
⑦販売促進費	¥6,120,000	⑦売上高(①)×20%
⑧その他経費	¥600,000	⑧コピー機リース費など 月5万円×12か月
⑨販売管理費合計	¥10,240,000	
⑩営業利益	¥1,160,000	

以上は、当事業の財務面でのシミュレーションを表している。

第 6 章 総括

6-1. 課題と展望

（1）課題

現状、当事業案を実施する上での不安要素として、以下のように考えられる。

①講師陣の選定・招聘方法

②修了後の支援

以上は、行政と民間企業、さらに大学の連携により解消が可能だと考える。よって、当事業計画案を実行に移す上で、最も重要視しなければならないのは、産学公の連携・協力体制を築くことだと考える。

（2）展望

当事業計画案の展望として、受講生のニーズの積極的な取り入れを主に掲げている。今回のアンケート調査により、希望する講義内容を実施時間や、さらには講師の人柄にまで言及された。これを踏まえ、計画段階から実行に移した後も、受講者の意識にマッチする学習サービスの形成に取り組む。

6-2. おわりに

今回このようなプレゼンテーションの機会を頂き、今大会の主催である、せたがや自治政策研究所、ならびに後援いただく東京商工会議所世田谷支部、世田谷区商店街連合会、公益社団法人世田谷工業振興協会、公益財団法人世田谷区産業振興公社に感謝の意を表したい。加えて、今回の事業計画案を作成するにあたって、協力・ご助力いただいた全ての方々に対しても感謝の意が絶えない。

最後に、この大会が世田谷区のさらなる繁栄と興隆に繋がることを願い、当事業計画を提案する。

参考文献

【書籍】
新井鎮久（2010）『近世・近代における近郊農業の展開-地帯形成および特権市場の農民の確執-』古今書院
大澤信一(2000)『新・アグリビジネス　21 世紀をリードする総合産業』東洋経済社
境 新一(2009)『今日からあなたもプロデューサー：イベント企画制作のためのアート・プロデュース＆マネジメント入門』レッスンの友社
境 新一(2010)『現代企業論－経営と法律の視点－第４版』文眞堂
境 新一(2012)『アート・プロデュースの仕事』論創社
境 新一(2013)『アグリ・ベンチャー　新たな農業をプロデュースする』中央経済社
佐藤亮子（2011）『農業者になるためには』ぺりかん社
林美香子（2008）『農都共生のヒント～地域の資本の生かし方～』寿郎社
馬場啓之助・唯是康彦(1986)『日本農業読本　第 7 版』東洋経済新報社

【論文・記事】
境 新一「アグリ・ベンチャー論の試み－新たな農業のプロデュースを目指して－」『成城大学経済研究』第 202 号、P279－P313、2013 年 12 月
境 新一「日本の商店街活性化に関する課題と展望－東京都世田谷区を中心にタウンマネジメントの視点からの考察－」『成城大学経済研究』第 205 号、P13－P54、2014 年 7 月
境 新一(2011)　「農商工連携の意義と役割」　厚木農商工連携等人材育成事業　講義資料
「学生街今むかし～成城大学周辺～ 学校城下町最高の学びの場」『日本経済新聞』2013 年 3 月 11 日付
小田急電鉄と成城学園，沿線集客に大学生が事業計画」『日本経済新聞』2013 年 5 月 28 日付
「学校が造った街・成城薄れる絆・復活の兆し」『毎日新聞』2013 年 11 月 9 日付

【資料】
境 新一(2011)　『ブランド戦略』「厚木農商工連携等人材育成事業」講義資料
2013 年度経営学合同ゼミナール・境研究室報告資料（2014 年 8 月）
2014 年度経営学合同ゼミナール・境研究室報告資料（2014 年 10 月）
中小企業基盤整備機構中心市街地活性化協議会支援センター「タウンマネジメントのススメ～協議会活動の推進に向けて～」平成 21 年 1 月
世田谷区商店街連合会『世田谷区商業名鑑－６０周年記念』2011 年
東京都商店街振興組合連合会「商店街がなくなるとどうなるのか東京都民の意識調査結果報告書～平成 23 年度商店街活性化推進調査・研究事業～」2012 年
境 新一「“学びの場”としての商店街と地域連携の可能性－成城学園における検証を中心に－」『成城学園教育研究所助成研究』2012～2014 年
世田谷区各種統計　書籍版、Web 版：Web http://www.city.setagaya.lg.jp/index.html（最新参照 2014 年 5～9 月）

【取材】
世田谷区生活文化部 生涯現役推進課 木曽弘子 氏　（2014 年 9 月）
世田谷区産業政策部都市農業課　黒沼順子 氏　（2014 年 8 月）
世田谷区産業政策部 産業政策部商業課 望月敬行 氏、野坂麗子 氏、新井英司 氏（2014 年 8～9 月）
東京商工会議所世田谷支部　宇田川裕司 氏　（2014 年 8 月）
JA 東京中央営農経済部 森屋秀巳 氏（2014 年 8 月）

【ウェブ】
世田谷区　統計書等　〈http://www.city.setagaya.lg.jp/index.html/〉(最新参照　2014 年 8 月)
成城商店街振興組合　〈http://www.seijo.or.jp/〉(最新参照　2014 年 8 月)
農林水産省　〈http://www.maff.go.jp/〉(最新参照　2014 年 8 月)
厚生労働省　〈http://www.mhlw.go.jp/〉(最新参照　2014 年 8 月)
せたがや SETAGAYA CITY　〈http://www.city.setagaya.lg.jp/index.html〉(最新参照　2014 年 10 月)
一般社団法人日本イベントプロデュース協会　〈http://www.jepc.com/〉(最新参照　2014 年 10 月)
女子美術大学　〈http://www.joshibi.ac.jp/〉(最新参照　2014 年 10 月)
株式会社全国商店街支援センター：http://www.syoutengai-shien.com/index.html(最新参照　2014 年 10 月)
経済産業省：http://www.meti.go.jp/(最新参照　2014 年 10 月)
一般財団法人地域活性化センター：http://www.jcrd.jp/(最新参照　2014 年 10 月)
公益財団法人東京都中小企業振興公社：http://www.tokyo-kosha.or.jp/(最新参照　2014 年 10 月)
日経メッセ：https://messe.nikkei.co.jp/js/column/cat454/124739.html(最新参照　2014 年 10 月)
東京都商店街ホームページ：http://www.toshinren.or.jp/index.html(最新参照　2014 年 10 月)
公共財団法人世田谷区産業振興公社：http://www.setagaya-icl.or.jp/(最新参照　2014 年 10 月)
世田谷区商店街振興組合連合会/世田谷区商店街連合会：http://www.ukiuki-setagaya.com/index.html(最新参照　2014 年 10 月)
独立行政法人中小企業基盤整備機構：http://www.smrj.go.jp/index.html(最新参照　2014 年 10 月)

（参　考）

２０１４　７

★世田谷区の人材育成を通したブランド創造に関するアンケートのお願い★

境ゼミナールでは、行政とも連携しながら民間主導で行う人材育成サービス、または、人材育成塾を世田谷区に開設しようと計画しています。その中心コンセプトは、アートとビジネスの融合を図れるプロデューサーの育成を通して、世田谷区のブランド創りを目指すものです。

現時点では、様々な学習コースを想定して調査・事業計画の検討を行っています。また、外部にて事業計画案の一部をもとにプレゼンテーションを行い実務家や研究者からご意見をいただいております。

そこでこのアンケートでは、以上のテーマにつき、選択式を中心に、一部に記述式を交えて回答をお願いするものです。選択式の設問では、該当する番号に○をつけてください。また、記述式の設問については、簡単で結構ですので回答欄にご記入ください。

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、アンケートの回答に、何卒ご協力をお願い申し上げます。

■あなたご自身についてお尋ねします。

問１　年齢　①10 歳代　②20 歳代　③30 歳代　④40 歳代　⑤50 歳代　⑥60 歳代以上

問２　性別　①男性　②女性

問３　現在のご住所
東京都（①世田谷区　②世田谷区でない 23 区内　③23 区外）
④神奈川県　⑤埼玉県　⑥千葉県　⑦茨城県　⑧その他（　　）

問４　ご 職業は、次のどれにあてはまりますか。　（○はひとつだけ）
①　無職（学生を除く）　②　有職　フルタイム　③　有職　パートタイム　④　有職　自営業
⑤　学生　⑥　その他　（　　）

問５　大学や専門学校に所属しながら、他の専修学校の講義を受けることに興味・関心はありますか。
① 興味がある　②興味がない
上記で②と回答した方は、必要性が生じた場合には、講座の内容について関心を持ちますか。
①知りたい　②知りたくない

■　世田谷区のイメージについてお尋ねします。

問６　あなたが世田谷区の特徴を一言で説明するとすれば、何ですか。
（　　）

問７　あなたが世田谷区のブランドイメージ（将来を含め）を創るとすれば、何を考えますか
（　　）

■　自己開発についてお尋ねします。　（○はいくつでも複数可）

問８　あなたが将来のご自身に投資をするとすれば、何でしょうか。
①　身体の錬成・健康の増進　②　専門技術・能力の取得（所得に直結）
③　専門技術・能力の取得（趣味中心、所得に直結しなくて可）④　保有資産の増大（株式投資ほか運用）
⑤　退職後の新たな人生設計　⑥　その他　（　　）

■　人材育成サービス、育成塾の開設についてお尋ねします。　（○はいくつでも複数可）

問９　行政と連携しながら民間主導で行う人材育成サービス、または、人材育成塾を世田谷区に開設すると仮定します。あなたが利用するか否かを決める際、以下のどの条件を重視しますか。
なお、該当する選択肢（　）の最適のものに○を記入。
①　費用　（ 1 万円以内　1～10 万円　11～30 万円　30 万円以上　）
②　履修期間　（　3 ヶ月　6 ヶ月　1 年　2 年　2 年超　）
③　時間帯　（　平日・夜　土日・昼間　土日・夜間　）
④　講師陣　（ 現役経営者　技術・実務家　大学等研究者　退職有識者 ）
⑤　場所　（ 世田谷区内　区外で東京都内　東京都外　場所は不問　）
⑥　内容　（ 商工業起業　現代農業起業　国際交流振興　文化芸術振興
スポーツ振興　医療・介護振興　コミュニティご近所力振興 ）
⑦　その他　（　　）

その他、「世田谷ブランド創造」について、ご意見がございましたら、裏面にご自由にご記入ください。